

孤立を生まない社会をつくる。
～命をつなぐ「こども宅食」を全国に広げたい。～
こども宅食応援団への寄付は、ふるさと納税で募集しています。

この画像が目印！

こども宅食で
孤立と貧困の
問題に挑む。

ふるさと納税型クラウドファンディングでご支援ください



こども宅食応援団
ふるさと納税はこちら




昨年度は248名の皆さんにご支援頂き、2,068万円のご寄付をいただきました。
ご支援いただいた皆さまありがとうございます！

あなたのご支援が、こどもたちの「今」を変える。


例えば
10万円の寄付で

支援が必要な
赤ちゃんの生まれるご家庭に
適切な見守りを行える

 佐賀市で実施する官民連携事業では
乳児用品を携えた支援員が
各家庭に訪問支援を
行っています


例えば
20万円の寄付で

地域で活躍するこども宅食事業に
資金とノウハウを
提供できる

 30世帯を支援する
こども宅食団体に対して
1ヶ月間の訪問支援に必要な資金と
適切な運営への助言を行えます

例えば
100万円の寄付で

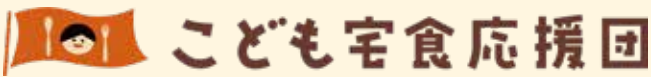
災害時を含む緊急支援で
こども達に必要な食品を5000世帯へ
お届けできる

 全国のこども宅食団体を通じて、
お菓子やレトルト食品など
親子に嬉しい食品を
年間延べ3万世帯にお届けしています

団体概要

団体名 : 一般社団法人こども宅食応援団
設 立 : 2018年10月
WEB : <https://hiomare-takushoku.jp>
所在地 : (佐賀事務局) 佐賀県佐賀市西魚町71-3
(東京事務局) 東京都千代田区神田神保町1-14-1KDX神保町ビル4F

こども宅食応援団は、認定NPO法人フローレンスグループであり、連携してこども宅食の全国普及に取り組んでいます。



ANNUAL
REPORT
2024-2025

KODOMO TAKUSHOKU



こども宅食で
孤立と貧困の
問題に挑む

www.hiomare-takushoku.jp



発行日: 2025年9月
発行元: 一般社団法人こども宅食応援団
デザイン: BUZZ GRAPHIX





ぬくもりを。

こどものとなりに、

すべての

親子のとなりに、そっと寄り添う「人」と、
心や体を支える、あたたかな「食」。
「こども宅食」が届けている「ぬくもり」が、
日本中、どの地域にも当たり前にあること。

身近に暮らす人たちが、互いに声をかけあい、
どんな人も「誰かに頼っていいんだ」と、思える。
そんなふうに、こどもたちの暮らしが「ぬくもり」で
いっぱい溢れる未来を目指しています。

こども宅食とは

こども宅食は、困りごとを抱えたご家庭へ
定期的な食品のお届けをきっかけに、
つながりをつくる取り組みです。
ご家庭を見守りながら、様々な支援につないでいきます。

動画で知る「こども宅食」



Message

「こども宅食」は、ついに全国47都道府県まで拡大！
今後はさらに身近な地域まで、アウトリーチ支援を届けたい。



こども宅食応援団 代表理事
駒崎 弘樹

「こども宅食」の輪が、ついに全国47都道府県すべてに広がりました。
これも各地で地道に活動続ける団体の皆さん、支えてくださる自治体や企業、
そして寄付者の皆さんのおかげです。本当にありがとうございます！

しかし今、私たちは新たな危機に直面しています。物価高騰が家庭を直撃し、
苦しい状況を誰にも打ち明けられないまま孤立してしまう親子が増えています。
私たちには、**もっともっとアウトリーチを届ける力**が必要です。

私たちは、一軒一軒のご家庭に直接食品を届け、つながりを大切に育んでいきます。
「誰にも頼れない…」そんな孤立を見逃さない社会を、皆さんと共に実現したいのです。

「こども宅食」の挑戦は、これからも続きます。一人でも多くの子どもたちに
笑顔届けられるよう、私たちと一緒に歩んでください。



こども宅食応援団 常務理事
原水 敦

2025年3月末時点で、こども宅食実施者ネットワークは、255団体となりました。
全国各地の皆さんは、1人の子どもの「助けて」に寄り添いたい…
その一心で活動を始められています。

しかし、「こども宅食」を始め、継続していくには、さまざまな課題に直面します。
物資・人材・活動場所の確保など、乗り越えるべきハードルは少なくありません。

私たちは、こうした悩みに寄り添いながら、物品のご提供や、活動のノウハウ共有、
先進事例の紹介などを通じて、実施者の皆さんをサポートさせてもらっています。

しかし、まだまだそのサポートは足りません。**皆さんの1歩が1人の子どもの未来を救います。**
すべてのこどものそばに、ぬくもりを届けられる社会を、ともに創っていきましょう。

About

こども宅食応援団とは

私たちは、こども宅食を全国に広げていくと同時に、
こども宅食に取り組む団体の活動をサポートする中間支援団体です。



勉強会や
交流会等を通じ
ノウハウを提供



LINE等による
運営相談や
情報提供



こども宅食の
立ち上げ
支援



国や企業からの
資金・物品の
提供



現場の意見を
ふまえた、国への
提言活動



全国の
取り組みの
発信・広報活動

2024年度は、
こども宅食の立ち上げを
全国で後押しするため、
立ち上げに関するノウハウを
まとめた冊子が完成！



詳細はこちら



私たちのミッション

今日を生きるこどもたちのために
多様な人々が手を携え
孤立を生まない社会を創る

2025

こども宅食を
地域の方々にもっともっと
知ってもらおう！

佐賀を始めとして各地に
「親子を孤立させない仕組み」
を作る

「親子を孤立させない
仕組みが必要だ！」
という仲間が増える

中期目標

「孤立させない仕組み」が
全国に次々導入されていく

最終目標

すべてのこどもが、
孤立せず、ぬくもりを
感じられる社会が実現される！

こどもの生活圏域に
(中学校区に1つ)
アウトリーチ支援が
ある状態をつくる！

全国 1900 の市町村で
こども宅食等の
アウトリーチ支援の実施

国として、こども宅食等の
アウトリーチ支援を
全国に推進

地域でこども宅食が
持続していく
仕組みの確立

こども宅食を一緒に広げる、
地域のパートナー団体との
連携を加速

中期および最終目標が目指す状態

子どもへのアウトリーチが
全国の基礎自治体の
公的な仕組みに組み込まれ、
「こども宅食」が
全国どこでも実施されている



2024年度の成果と課題



皆様の寄付に支えられ、こども宅食は全国47都道府県に拡大しました。
さらに、国の重要施策をまとめた「経済財政運営と改革の基本方針(通称:骨太の方針)」に
5年連続で「こども宅食」が明記されることができました。
しかし、実施団体を対象とした全国調査では多様な課題も明らかになっています。

課題 1

全国的に
こども宅食の
認知が低い

課題 2

事業を
簡単には
始めにくい

課題 3

運営に多くの
物資や資金が
必要になる

2025年度は、下記を重点事業として
推進していきます

- ①地域単位でのこども宅食勉強会
- ②地域単位でこども宅食の新規立ち上げ
- ③佐賀地域のモデル事業化

Activity report 2024年度の活動報告

こども宅食による
支援家庭数
約3万4千家庭



こども宅食を実施する
自治体
47都道府県

全国
達成!



資金助成により
サポートした団体数
延べ229団体



こども宅食実施団体へ仲介した
寄付物資
58.7万点



01 国内最大級の食品卸企業と連携！ 全国累計10万世帯への物資配送を仲介

Activity

「こどもフードアライアンス」は、こども宅食応援団が、認定NPO法人フローレンスと連携し子育て家庭へ食支援を行う取り組みです。国内大手食品卸の株式会社日本アクセスや食品メーカーといった企業34社に協賛いただき、こども宅食実施団体を通じて、2021年度から過去4年間で累計10万世帯へ食品や日用品の支援を届けました。



04 こども宅食実施団体との連携を強化し伴走支援 こども宅食「まんぷくライダー」が始動

Activity

こども宅食「まんぷくライダー」は、官民連携で運営する、佐賀市にあるセントラル倉庫と、佐賀県が新たに整備した県内4か所の物資拠点をつなぎ、親子の支援を行う団体へ定期的に食材などを届ける取り組みです。各団体との関係性を深め、支援物資の安定供給や、安心して活動を継続できる環境づくりに取り組みます。



02 全国229団体への資金助成事業を実施し、 延べ29万人の親子へ支援を提供

Activity

長引く物価高騰の影響で、子どもたちを取り巻く環境の悪化や、社会的な孤立をますます深める状況が課題となっています。そのような家庭を支えるため、こども家庭庁補助事業「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」を原資に全国のこども宅食実施団体等への資金助成事業を実施し、緊急的な支援を行いました。(令和7年1月～3月期は関西地区で実施)



05 佐賀バルーナーズ×こども宅食応援団 観戦の喜びを支援家庭へ

Activity

プロバスケットボールチーム「佐賀バルーナーズ」と連携し、こども宅食でつながる親子を対象とした「観戦チケットプレゼント企画」をスタート。2024～2025シーズンのホーム戦2試合で、合計100名の皆さんを試合に招待しました。「子どもの笑顔を見ることができて幸せな気持ちだった」「明日からまた仕事を頑張ろう」など、喜びの声が届いています。



03 こども宅食赤ちゃん便の事例を交えた 勉強会で「妊娠期からの支援」を学び合う

Activity

妊娠期からつながり、安心して出産育児にのぞむ事ができるように、「地域で支える命のはじまり」について、こども宅食赤ちゃん便の事例も交え、オンラインで勉強会を実施しました。佐賀市では、学びを深めるワークショップも開催。民間・行政・企業など多業種の意見を持ち寄り「今私たちが出来ること」について語り合いました。



06 コスメで笑顔を届けたい！ 「佐賀県コスメギフトプロジェクト」に参画

Activity

「佐賀県コスメギフトプロジェクト」は、商品の入れ替え等で行き先の決まっていない化粧品を、経済的な事情で化粧品を購入することが難しいご家庭にお届けするプロジェクトです。こども宅食実施団体を通じてお届けしたコスメは、お母さんの笑顔となり、「メイクをして参観日に行ってきます」「就活がんばってみます」など、前に進む力をそっと後押ししてくれる贈り物となりました。





MINNANO HIROBA
KIRAKU

みんなの広場気楽

尾張嘉平さん

活動エリア

大阪府
堺市

支援世帯数

約 80 世帯

記事の全文は
こちら



どんな形でも、 支援を絶やさないことが大切

放課後に居場所へ来て、夜の7時半頃になっても
帰宅しようとしないうちもたちがいました。

不思議に思って理由を聞いてみると、
「お母さんが仕事で家にいないため、帰りたくない」
という思いを話してくれました。

しかし、家庭の事情を知っても、いきなり踏み込むことはできません。
もう一歩、家庭に踏み込むツールとしてこども宅食を開始しました。

食品をツールに家庭に出向くことで、
こども食堂や居場所支援では把握できない家庭の状況に
気づけるようになるためです。

「どんな形でも、支援を絶やさないことが大切」

今日も地域の子どもの笑顔のために

温かい支援を届け続けています。



クリスマスにお届けした
ランドセルを背に
笑顔を見せてくれました。



HOSHIKUMA JIDO KATEI
SHIEN CENTER

ほしくま児童家庭支援センター

吉成のり子さん 大川原順子さん
佐瀬駿介さん

活動エリア

福島県
郡山市

支援世帯数

約 80 世帯

記事の全文は
こちら



貧困を社会課題ととらえて、 あたたかい関心をよせ続ける

行政からの支援要請があり訪問したある家庭は、
出稼ぎに出ていた父との連絡が途絶え、生活がままならない
状況にありました。母、祖母、そして乳児を含む多子家庭。

訪問時にはお米やお菓子も持参しました。

「ほら、〇〇ちゃんが大好きなまっ白いごはんだよ。嬉しいね」

「このラムネ、1個もらっていいの？幸せだね」と笑顔を見せてくれる子ども達。

「幸せって、どこでそんな言葉覚えたんでしょうね」と兄妹の様子を

みていたお母さんも自然と表情がやわらぎます。

大切なのは「あたたかい関心をよせ続けること」

みんながつながって支えあえる。

そんな社会を作ることが

孤立をうまない社会をつくることにつながると

信じて親子の毎日を見守っています。



地域の子どもたちが、
居場所へ足を
運んでくれています。

Pickup

すべてのこどものとなりにぬくもりを。

「あの子を支えたい」こども宅食の現場から



Creer KODOMO SHOKUDO
TAKUSHOKUBIN

特定非営利活動法人Creer

クレエール子ども食堂 宅食便

原田昭仁さん 喜多條雅子さん

活動エリア

徳島県徳島市
および
周辺地域

支援世帯数

約 500 世帯

記事の全文は
こちら



※こども食堂やパントリー含む

助けてほしいと思った時に 「クレエールがいる」と思ってもらえるように

「これからどうやって生きていこう」今日明日を生きるために
すぐれるものはないかとSOSのメールを送ってくれた

親子がいました。訪問すると、日中にも関わらず、
室内は暗い空気に包まれています。訪問を重ねるうちに、
少しずつお母さんの表情も和らぎ、お子さんも一緒に
遊ぼう!と心待ちにしてくれるようになりました。

「品物も嬉しいけれど、家に来てくれる人がいる事が嬉しい」

と思いを聞かせてくれたお母さん。

困難な状況でも、誰かがつながっていれば、

親子の心や生活が救われる。「助けてほしい」と

思った時に「クレエールがいる」と思って

もらえるように、親子とつながって、一人ずつでも

困難な状況から良い状態にしたい。

そう願いながら日々活動しています。



大好きなお菓子に大喜び!
食堂に来る事も
楽しみになりました!



SHODOSHIMA
KODOMO TAKUSHOKU

一般社団法人小豆島子ども・若者支援機構

「小豆島こども宅食」

岡広美さん

活動エリア

香川県
小豆島町

支援世帯数

約 90 世帯

記事の全文は
こちら



心の扉が開けば、その家庭が社会と つながるきっかけになる

訪問に抵抗感をもつご家庭も、食事は大切なものなので

ドアを開けてくれます。回数を重ねるごとに、

電話がかかってくるようになったり、リクエストがくるようになったり、

少しずつ心の距離が近づいていきます。

ある家庭では、「お子さんたちお元気ですか?」と何気なく声をかけたところ、

お母さんの表情が変わり、せきを切るように思いのたけを

話してくれたことがありました。

こんなに大変な思いを抱えていたのかと、

その日はじめてお母さんの思いを受け止めることができ、

次の相談先に一緒に相談してみようという

対話をすることもできるようになりました。

心の扉が開けば、その家庭が社会とつながる

きっかけになると信じて、関係性づくりを

大切に活動を行っています。



訪問を楽しみにして
くれていたAくん。
満面の笑顔が印象的です。

皆様のご寄付と応援の声が「こども宅食」を支えています

寄付者のメッセージ



孤立を生まない社会、たくさんの親子が笑顔で暮らせる社会を作ろうとされていること、応援しています。

ふるさと納税寄付者

子どもたちのために、このような活動をしてくださりありがとうございます。
この活動の大切さが周知され、全国へ広がるよう今後も応援させていただきます。

ふるさと納税寄付者

子どもが健やかに育つ社会を一緒に作りましょう！

ふるさと納税寄付者



子どもがお腹をすかせていることがいちばん辛いと感じる年齢になり、寄付を始めて何年かたちました。だからお礼も感謝も必要ありません。子どもが食べてくれれば満足です。

ふるさと納税寄付者

物価高で宅食も大変だと思いますが、重要性が増しているはずなので、粘り強く頑張しましょう！

少しでもお役立てください。

ふるさと納税寄付者

こども宅食に助けて頂きましたので、他のひとり親家庭の方々も、私と同じ気持ちを味わって頂きたいです。

ふるさと納税寄付者

子どもを産んでから、我が子以外の子ども幸せに暮らしてほしいと強く感じるようになりました。

全ての子ども達が笑顔で過ごせますように！

ふるさと納税寄付者



「子どもは社会で育てる」という

北欧の理念を伝えるために、本年もご協力させていただきました。子育て家庭の困窮は、個人の責任ではなく、社会の課題であるという思いがあり、「こども宅食」に共感しています。母親に対して過度な責任や役割を押し付けるのではなく、みんなで助ける。そんな雰囲気作りの一助になればと願っています。

kippis

ブランドディレクター 根本さん



こども宅食応援団の皆様とご一緒させていただき、まだまだ僕らが知らない子ども達がいることを知りました。アリーナに来て下さることで、子ども達の大きな一歩に繋がっていることも、大変嬉しく思います。これからもクラブとしてできることを考えていきます。共に支えていきましょう。

株式会社佐賀バルナーズ
マーケティング部 山下さん

こども宅食応援団の皆様の取り組みは、地域の未来を担う子どもたちを支える大切な活動です。スポーツが育む“つながり”の力と共に、誰もが笑顔で希望を持てる社会づくりに貢献してまいります。

株式会社佐賀バルナーズ
スポンサー営業 深海さん



パートナー企業のメッセージ



ブランディアは、モノのリユースを通じて「想いを次につなぐ循環」を大切にしてきました。こども宅食応援団の活動もまた、地域の中で温かな支え合いの循環を生み出し、子どもたちの未来を守る力になっています。同じ「循環」を大切にする者として、私たちが心を込めてこの活動を応援し、皆さまと共に歩みを進めてまいります。

株式会社サークルラックス ブランディア事業部
マーケティング部マーケティング課の皆さん



Info

理事会

代表理事： 駒崎 弘樹
認定NPO法人フローレンス創業者

原水 敦
常務理事： 一般社団法人ビープラス 代表理事
社会福祉士

理事： 松山 亜紀
キンドリルジャパン株式会社 社会貢献 担当部長

2024年度会計報告

経常費用の使途概要	(千円)	ご寄付その他収益の概要	(千円)
役員報酬	4,284	●指定正味財産増減の部	
給料手当	6,951 ^{※1}	受取寄付金	17,416
荷造運賃	6,160 ^{※1}	一般正味財産への振替額	-36,100
支払助成金	238,762 ^{※1}	当期指定正味財産増減額	-18,684
旅費交通費	1,905 ^{※1}		
業務委託費	50,727	●一般正味財産増減の部	
(内、こども家庭庁補助事業)	29,215 ^{※1}	受取寄付金	1,702 ^{※3}
(内、佐賀他 事務局人件費)	15,839	受取寄付金振替額	36,100 ^{※4}
(内、経理総務、広報他)	5,673	受取助成金	279,301 ^{※5}
広告宣伝費	3,191	受取謝金	134
通信費	1,788 ^{※1}	事業収入	2,376
支払報酬	2,096 ^{※1}	受取利益・雑収益	74
その他費用	3,818 ^{※1※2}	経常収益計	319,686
経常費用計	319,681	経常費用計	319,681
千円未満四捨五入		当期一般正味財産増減額	5
※1 全国各地の宅食団体に対する助成事業と伴走支援を行う令和6年度こども家庭庁「ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業」による費用を含む。			
※2 経理・総務・法務等の法人運営費を含む。その他費用の詳細は「佐賀県ふるさと寄付金」NPO等を指定した支援による寄付金活用実績報告書」(https://www.cso-portal.net/furusato/group/archives/58で掲載予定)をご覧ください。		●正味財産期末残高(次年度以降への繰越し等)	
※3 ふるさと納税以外の通常の寄付金		指定正味財産期首残高	66,736
※4 指定正味財産からの振替え		当期指定正味財産増減額	-18,684
※5 令和6年度こども家庭庁「ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業」など		一般正味財産期首残高	226
		当期一般正味財産増減額	5
			48,283

パートナー企業・団体 こども宅食応援団をさまざまな形でささえていただいた皆さんを一部ご紹介します。(敬称略・50音順)

 kippis (キップイス)	 佐賀バルナーズ	 株式会社日本アクセス
 ブランディア	 明治ホールディングス株式会社	 株式会社ローソン

※グループ団体である認定NPO法人フローレンスを通じてサポートくださった企業も含む